

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院薬学研究科長 殿

主 査： 小 林 道 也 

副 査： 吉 村 昭 毅 

副 査： 平 野 剛 

副 査： 小 田 雅 子 

このたび須賀 秀行 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

慢性腎臓病患者における尿毒症物質インドキシル硫酸の血中濃度の評価とスタチン系薬との相互作用に関する研究

2. 論文要旨 (別 添)

3. 学位論文審査の要旨

透析患者においては血中にインドキシル硫酸 (IS) 等の尿毒症物質が蓄積するが、慢性腎臓病 (CKD) ステージごとの IS 濃度や、それによる薬物動態への影響については不明である。本研究は、血清中 IS 濃度の個人差の一要因である食事がほぼ同一である老人保健施設の入所者を対象として、腎機能検査値と IS 濃度との関連性について検討し、さらに認知症の有無の影響についても検討した。また、スタチン薬を服用中の入院患者におけるクレアチニンキナーゼ (CK) 上昇と IS 濃度との関連性について検討し、ラットにおける IS による薬物相互作用についても検討した。

その結果、入所者の血清中 IS 濃度は腎機能の低下とともに上昇し、良好な相関を示すが、認知症のある者では相関性が認められず、早期腎障害の段階から IS 濃度が高値であることが予測された。また、スタチン薬を服用中のステージ G4 の CKD 患者では IS 濃度の増加により CK が上昇し、横紋筋融解症のリスクが高まることを見出した。一方、ラットに IS を単回投与してもプラバスタチンの胆汁中排泄は阻害されなかった。これらの新たな知見を見出した点は評価でき、また適切な考察が行われていることから、博士 (薬学) の学位を認定しうるものであると判断される。

4. 最終試験の要旨

博士論文研究発表会における発表内容、発表態度、質疑応答、さらに口頭試問における質疑応答も適切であったことから、博士 (薬学) の学位取得に十分な学力を有するものと認められる。

ある

以上の結果 須賀 秀行 は博士 (薬学) の学位を授与する資格の

ものと判定する。

~~ない~~

以上